

# 心のケアセンターでの3グループの活動実績

## — 現代G Pの取組の一環として —

井ノ崎敦子 小西 浩嗣 平井 純子  
中地 展生 野村 恭代 三木 善彦

### 【取組の概要】

文部科学省「現代的教育支援プログラム（現代G P）」に帝塚山大学の取組「『心のケアとサポート』人材養成と自立支援—地域の活性化と安心・安全な社会の創造のための実践的教育」が採択されたことを受けて、平成18年度中に心のケアセンターにおいてもこの現代G Pに関する3つの事業をスタートすることができた。今回の現代G Pについての全体的な報告については、中地ら（2008）に譲るとして、心のケアセンターに関わるのは、文部科学省に取組のひとつとして提案した「心のケアセンター・学部でのグループワークによる子育て・発達支援活動、障害者支援活動の実施」という項目である。具体的に、この項目を達成するために、心のケアセンターにて事前に打ち合わせを重ね、①ドメスティック・バイオレンス被害者支援グループ（通称さくら会）、②アドベンチャーカウンセリング体験会、③軽度発達障害児支援グループ（通称のびのびクラス）、の3つのグループ活動を実施することができた。これらのグループについての詳しい活動内容については、それぞれのグループの担当者でもある各執筆者に報告していただくことにして、簡単な概要をここに紹介したい。

#### ① ドメスティック・バイオレンス被害者支援グループ

当心のケアセンターでは、その発足当時から、犯罪被害者や、家族や恋人間の様々な形での暴力、虐待を受けてきた人々等への相談を広く受けてきている。今回、現代G Pの事業の一環として立ち上げられたのが、ドメスティック・バイオレンス被害者のサポートグループ「さくら会」である。いくつかの先行研究によって、ドメスティック・バイオレンス被害者に「自尊感情」の著しい低下が見られることがしばしば指摘されているが、同じような悩みを抱える仲間による自助的な支援や専門家による心理教育的なアプローチによってそれらを改善していくことが有効ではないかと考えられる（中釜、2004）。今回の「さくら会」の8回にわたる活動の結果、参加メンバーの自尊感情が明確に高くなっていることから、このグループ活動の有効性がうかがえる。これについては、井ノ崎が活動をまとめ報告する。

#### ② アドベンチャーカウンセリング体験会

アドベンチャーカウンセリングは、帝塚山大学の心理臨床部門のひとつの顔であると言っても過言ではない。前・心のケアセンター長の古瀬（2005）は、このアドベンチャーカウンセリング

の帝塚山大学における現代的な意義について“この方法は、心理的な問題をともなう人たちが、さまざまな冒険を体験することで、もっている心の悩みや不安に向き合いながら、社会性を発達させ、問題の克服に導こうとするものである”と述べている。今回12月25日から3日間集中して帝塚山大学内外の学生、教員を対象として、このアドベンチャーカウンセリングの体験会を実施することができた。本学にてアドベンチャーカウンセリング関連授業の教鞭をとっている小西がこの活動についてまとめている。

### ③ 子育て・発達支援グループ

平成19年の2月17日に同じく現代GPの活動の一環として、「発達障害児支援の現状と展望」というタイトルでシンポジウムを行った。このテーマについて、興味関心のある地域の多くの方の参加を得ることができ、好評のうちに終えることができた。それは現在、発達障害、あるいは、軽度発達障害についての興味関心が非常に高まっているひとつの証拠でもある。そのような軽度発達障害児など、社会的場面において適切に振舞うことが難しい子どもたちとその保護者に対して様々なプログラムが生まれ、実践されているのが「のびのびクラス」である。中心となって活動している平井によって、これらの活動を今回まとめてもらった。香川県アスペ・一人立ち支援親の会の代表者であり、自らもアスペルガー症候群の子どもを育てた経験を持つ芳田（2007）は、その保護者会の持つ重要性を指摘している。この事業は、本学心理福祉学部の教員である、神澤、宮川らによって運営されていることも特筆すべき点である。

## 文 献

- 古瀬謹一（2005）心のケアの方向についての一考察 帝塚山大学心のケアセンター紀要第1号1-7  
中釜洋子（2004）ドメスティック・バイオレンス 心理臨床大事典〔改訂版〕培風館 1255-1257  
中地展生・野村恭代・蓮花一己・柴田正美（2008）帝塚山大学現代GPプロジェクトによる「心のケアとサポート教育」の展開 帝塚山大学心理福祉学部紀要第4号（校正中）  
芳田菖子（2007）模索の中から掴んだ人生の指針 現代のエスプリ476スペクトラムとしての軽度発達障害II 218-227